

授業科目	* 児童・家庭福祉					実務家教員担当科目	-				
単位	2.	履修	必修	開講年次	2	開講時期	前期				
担当教員	文屋 典子										
授業概要	<p>日本と同様に少子化傾向にあった諸外国が少子化からの回復に成功した一方で、日本は少子化の進展、出生数の減少に歯止めがかからない状況が続いています。全ての子どもが適切な環境の下でしあわせな成長・発達を遂げられるよう、子どもの育ち、子育て家庭の生活、保護者の子育てを支えていく社会をいかに実現するかは、私たちが直面している大きな課題です。</p> <p>社会状況や子ども観、家庭のあり方が変化する中で、新たな課題が生じ、児童家庭福祉の法制度やサービスも新設、改正を繰り返してきました。どのような社会的背景のもと新たな法制度やサービスが何をめざしてきたのかを踏まえつつ、法制度やサービスの内容を解説するとともに、子ども家庭福祉における生活課題と支援の実際、社会福祉士の役割について解説します。</p>										
授業形態	講義	授業方		法							
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解している。 2 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解している。 3 児童や家庭福祉にかかる法制度について理解している。 4 児童や家庭福祉領域における支援のしくみと方法、社会福祉士の役割について理解している。 5 児童・家庭への適切な支援のあり方を理解している。 										
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について説明できる。 2. 児童福祉の歴史と児童観の変遷、制度の発展過程について説明できる。 3. 児童や家庭福祉にかかる法制度について説明できる。 4. 児童や家庭福祉領域における支援のしくみと方法、社会福祉士の役割について説明できる。 5. 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を説明できる。 										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）					備考					
試験	80%										
小テスト											
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物											
その他	20%					毎回の授業におけるコメントカードへの記述内容から授業内容の理解度、授業への取り組みを評価します。					
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21218J
										グ	

学習課題（予習・復習）		1回の学習目安 （時間）
授業内容についての復習		4
授業計画		
第1回	<p>テーマ：オリエンテーション</p> <p>少子化をはじめとする子どもと家庭を取り巻く社会的状況、子ども家庭庁発足や児童福祉法改正をめぐる最新の児童家庭福祉施策とその意義、社会福祉士に期待される役割について解説する</p>	
第2回	<p>テーマ：子ども観の変遷と子どもの権利</p> <p>子ども観・子どもの権利の変遷、児童の権利に関する条約、子どもと家庭の定義、家庭の意義、子どもの権利と親権について解説する。</p>	
第3回	<p>テーマ：児童家庭福祉の歴史</p> <p>欧米における救貧法から戦前期児童保護までの変遷、日本の近代化の中での子どもと家庭問題と社会事業史について解説する。</p>	
第4回	<p>テーマ：子ども家庭福祉の進展と社会の変遷</p> <p>児童福祉法及び児童福祉六法成立の時代背景として、戦後、高度経済成長期、少子化への変遷をとりあげ、社会の変化が子どもと家庭に及ぼす影響とエコロジカルな視点について解説する</p>	
第5回	<p>テーマ：現代社会における子ども・家庭の状況と子ども家庭福祉施策</p> <p>少子化の進行と社会・経済的状況の変化や子どもの育ちと子育て環境の変化をとりあげ、少子化対策や次世代育成支援、子ども子育て支援制度と関連する法律について解説する。</p>	
第6回	<p>テーマ：子ども家庭福祉の法体系と計画的推進</p> <p>子ども家庭福祉の法体系、実施体制と関係機関・専門職の役割、子ども家庭福祉の計画的推進について解説する。</p>	
第7回	<p>テーマ：社会的養護を取り巻く状況、支援と課題</p> <p>社会的養護の概念と取り巻く状況、社会的養護の体系、支援と課題について解説する。</p>	
第8回	<p>テーマ：非行を取り巻く状況、支援と課題</p> <p>非行と犯罪の定義、非行と子ども家庭福祉、非行を取り巻く状況、非行への対応の仕組み、非行への支援と課題について解説する。</p>	
第9回	<p>テーマ：児童虐待の現状</p> <p>児童虐待の現状と関連法、児童虐待の要因と影響、虐待対応のしくみ、支援と課題について解説する。</p>	
第10回	<p>テーマ：児童虐待への対応と支援の実際</p> <p>虐待事例にもとづき、虐待の深刻度の見極めや対応における優先順位、関係者との対応協議などについて学生自身の考察を踏まえながら解説を行う。</p>	
第11回	<p>テーマ：母子保健の現状と支援</p> <p>母子保健の現状、母子保健関連施策の体系と推進体制、妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない包括支援の構築と支援の実際について解説する。</p>	
第12回	<p>テーマ：障害のある子どもへの支援</p> <p>障害のある子どもの現状、支援体系と関連法、支援の実際について解説する</p>	
第13回	<p>テーマ：ひとり親家庭と女性福祉にかかわる支援の実際</p>	

	ひとり親家庭の現状と生活ニーズ、女性福祉とは何か、なぜ必要なのか、女性やひとり親家庭をとりまく困難の現状と支援の実際について解説する。
第 14 回	<p>テーマ：若者の自立にかかわる支援の実際</p> <p>困難を抱える若者たちの現状と自立をめざした支援、教育との協働の実際について解説する。</p>
第 15 回	<p>テーマ：当事者参画とアドボカシーにかかわる実践</p> <p>子どもの声をきき、制度に反映させること、子ども自身が人生の決定にかかわれるようサポートするアドボカシー実践と社会福祉士に求められる専門性について解説する。</p>
テキスト	<p>新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 12</p> <p>『児童・家庭福祉』</p> <p>林浩康・山本真実・湯澤直美 編著</p> <p>ミネルヴァ書房</p> <p>「福祉小六法 2024」中央法規</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>子ども家庭福祉の現状を把握するための統計資料を授業の中で取りあげます。出典となるデータベースを紹介しますので、各自アクセスしてデータの詳細部分に目を通しましょう。</p> <p>参考図書は授業のテーマに応じて紹介します。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>コメントカードは毎回返却します。質問等に関してはコメントを記入し、授業の中で共有するなどしてフィードバックを行います。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>新聞やニュース等で取り上げられる子どもや家庭に関連する話題を知っておきましょう。戦後の日本社会がどのような変化を遂げてきたかをイメージできることで、授業の内容を理解しやすくなると思います。高校までの社会科で学んだ内容を復習しておきましょう。</p> <p>2023年4月から子ども家庭福祉施策の実施体系、法制度が大きく変わりました。教科書の記載内容は最新の情報に追いついていない部分がありますので、配布資料や情報元の URLなどを掲示することで、最新の情報を伝えていきます。復習の際は情報の整理を行うように心がけましょう。また、法律の名称を覚えるだけでなく、制定の経緯や法の概要を理解し、「福祉小六法」を開いて法律の条文に目を通すことを身につけましょう。</p>